

首里の渋滞解消 相乗りタクシー

首里城正殿完成まで2年

首里の交通問題解消に向け、相乗りタクシー導入を目指すNPO法人首里まちづくり研究会の伊良波朝義理事長＝28日、那覇市



交通渋滞が長年の課題となっている那覇市の首里城周辺で、相乗りタクシーの導入が計画されている。正殿が完成する2年後を見据えたまちづくり団体による取り組みで、来年度にも実証実験に乗り出す。県外で補助金を使ったコミュニティバスの導入例はあるが、民間のタクシー会社を活用した地域住民の試みは初めてとみられる。入り組んだ路地や坂道が多い古都の街で、住む人にも優しいまちづくりが進められている。（政経部・平良孝陽）＝1面参照

首里城には年間280万 道幅が狭いといった道路事
人が訪れ、火災前から周辺 情がある。また市内でも高
の交通渋滞が住民の悩みの 齢化率が高く、中には40%
種だった。一帯は坂が多く 近い地域もあるとされ、買

NPO計画 来年度実証へ

い物や通院など生活への影響が喫緊の課題となっている。NPO法人首里まちづくり研究会は、交通事情を「2026年問題」と位置付け、正殿完成までの解消を掲げた。コミュニティバスの案もあったが、道路事情や財源不足で導入を断念。既存のタクシー会社と連携し、相乗りする計画を立てた。

配車はタクシー会社のオペレーターを活用し、人件費や管理費を運賃に上乗せする。IDで会員を管理し、自宅まで迎車して目的地まで運ぶ仕組みだ。買い物や通院、サークル活動などで利用できる。

同研究会は経済産業省の「地域新Maas創出推進事業」の支援を受けて計画を練り、8月に意見交換会やアンケートを実施した。住民の主な交通手段は自家用車で、モノレールやバス、タクシーの利用は少数だったことが確認された。

伊良波朝義理事長は「民間のタクシーを活用した持続可能な交通サービスは他府県でもない」と話す。アンケートの精度を高め、来年度には実証実験に乗り出すといい「他の地域のモデルとなるよう事業化できれば」と自信をのぞかせた。